

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 7 月 11 日現在

機関番号：41310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K10983

研究課題名(和文)在宅療養高齢者への訪問看護師によるフットケアプロトコルの開発

研究課題名(英文) Development of a foot care protocol by visiting nurses for the elderly in home care

研究代表者

平尾 由美子(Hirao, Yumiko)

仙台赤門短期大学・看護学科・教授

研究者番号：60457752

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：高齢者に頻発する足部の病変(乾燥、浮腫、胼胝・鶏眼、爪の異常、創、水虫の疑い)について研究者らが開発した「訪問看護師のためのフットケアプロトコル(原案)」の信頼性の検証に向けた調査を実施した。

訪問看護師による紙面上の評価(n=39)では、実用化の可能性「有り」が7割以上であり、概ね肯定的評価が得られた。

プロトコル(原案)を訪問看護で2週間活用した調査(n=10)では、乾燥、浮腫、爪の異常への活用頻度が高く、問題領域特定までのフローチャートの部分については、「役立った」との回答が7割以上であったが、看護計画の具体性を求める意見がみられ、改善の方向性が明確となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護師の多くがフットケアの必要性は理解しているがケア方法の判断に困難を抱えている現状に対して、安全・確実なフットケアの指針となるプロトコルを提供に向けて有意義な研究となった。

高齢者へのフットケアの効果として、歩行機能の維持・向上のみならず、全身の健康レベルの向上への寄与が期待され、効果が検証されつつある。本プロトコルが更に精練され、訪問看護師に活用されることにより、在宅でのフットケアが促進され、在宅療養高齢者の介護予防が推進される。

研究成果の概要(英文)：We investigated foot lesions ((1) dryness, (2) edema, (3) calluses/corns, (4) nail abnormalities, (5) wounds, and (6) suspicion of athlete's foot) that are common in elderly people). A questionnaire was conducted to verify the reliability of the "foot care protocol for patients (draft)".

In the paper evaluation by visiting nurses (n=39), more than 70% of the respondents answered that there is a possibility of practical application, and it was generally well received.

In a study (n=10) using this protocol (draft) for home care for 2 weeks, it was commonly used for dryness, edema, and nail abnormalities. More than 70% of respondents answered that their nursing care plans are more specific, but there are also opinions that require more specificity, and the direction of improvement has become clear.

研究分野：地域・在宅看護学

キーワード：フットケア プロトコル 在宅療養高齢者 訪問看護 足病変予防

様式 F-7-2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		仙台赤門短期大学	機関番号	41310
研究代表者	部局	看護学科		
	職	教授		
	氏名	平尾 由美子		

1. 研究種目名 基盤研究(C) (一般) 2. 課題番号 20K10983

3. 研究課題名 在宅療養高齢者への訪問看護師によるフットケアプロトコルの開発

4. 補助事業期間 令和2年度～令和4年度

5. 研究実績の概要

研究全体の目的は、高齢者に頻発する足部の病変6項目（乾燥している、浮腫がある、爪の異常がある、創がある、水虫の疑いがある）について研究者らが作成した「訪問看護師のためのフットケアプロトコル（原案）」を訪問看護師の実践に活用し、足部の問題領域の特定や対処行動の指針として有効であることを明らかにすることである。

調査は二段階構成とし、第一段階は、訪問看護師によるプロトコル（原案）の紙面上の評価、第二段階は、プロトコル（原案）を活用した上での評価を得ることを目的とした。前年度の第一段階の調査結果(n=39)では、実用化の可能性は「ある」という返答が約75%であり「判断基準となり、スタッフ皆がフットケアに実践できる」などの多くの肯定的評価が得られた。

それらの結果を踏まえ、2022年度は、「フットケアプロトコル（原案）」を実際に訪問看護の場で活用してもらい、プロトコルを指針としての観察やケア方法の選定ができたのか等、訪問看護師にもたらした効果を明らかにするため調査を実施した。具体的には、訪問看護師に「フットケアプロトコル（原案）」を用いた介入を2週間依頼し、その活用状況を自己記録してもらった(n=10)。その結果、2週間の間にプロトコルが活用された数の全参加者分の合計は、多い順に乾燥（120回）、浮腫（80回）、爪の異常（43回）、水虫の疑いがある（32回）、創がある（19回）、胼胝・鶏眼（18回）であった。問題領域特定のためのフローチャートの部分については、73%以上の参加者が役立ったと回答し、「問題領域が明確になる」、「状況把握に効果的である」等の評価が得られた。看護計画の部分には65%が役に立ったと回答した。看護計画が抽象的などの指摘について改善を図り、規模を拡大した実施検証に進む予定である。

6. キーワード

フットケア 在宅療養高齢者 訪問看護師 プロトコルの評価 フローチャート 看護計画

7. 研究発表

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 鈴木博美, 鹿野卓子, 平尾由美子	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 在宅におけるフットケア教育の現況と課題 国内外の文献レビューから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本伝統医療看護連携学会誌	6. 最初と最後の頁 123-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34511/jstn.3.2_123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

3版

1. 著者名 平尾由美子, 小笠原祐子, 立石和子, 東本恭幸, 鈴木博美, 鹿野卓子	4. 巻 24(7)
2. 論文標題 在宅療養高齢者にフットケアを届けるために 在宅フットケアプロトコルの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 67-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 平尾由美子, 小笠原祐子, 立石和子, 東本恭幸, 鈴木博美, 鹿野卓子
2. 発表標題 在宅療養高齢者のフットケア・プロトコル原案の評価 (第2報)
3. 学会等名 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

8. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件 (うち出願0件 / うち取得0件)

9. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

10. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

11. 備考

-

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鈴木博美、鹿野卓子、平尾由美子	4. 巻 3
2. 論文標題 在宅におけるフットケア教育の現況と課題 国内外の文献レビューから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平尾 由美子、鈴木 博美、小野 八千代	4. 巻 1
2. 論文標題 看護師によるフットケアへの東洋医学の活用状況	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 伝統医療看護連携研究	6. 最初と最後の頁 65～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34511/jstn.1.1_65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平尾由美子、小笠原祐子、立石和子、東本恭幸、鈴木博美、鹿野卓子	4. 巻 24(7)
2. 論文標題 在宅療養高齢者にフットケアを届けるために 在宅フットケアプロトコルの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 67-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 平尾由美子、小笠原祐子、立石和子、東本恭幸、鈴木博美、鹿野卓子
2. 発表標題 在宅療養高齢者のフットケアプロトコルの開発 プロトコル原案の評価 第1報
3. 学会等名 日本フットケア・足病医学会 第2回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平尾由美子、小野八千代、小笠原祐子
2. 発表標題 在宅看護学の教科書における「フットケア」に関する記載内容の傾向
3. 学会等名 日本看護科学学会 第41回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木博美、鹿野卓子、平尾由美子
2. 発表標題 在宅におけるフットケア教育の現況と課題 - 国内外の文献レビューから -
3. 学会等名 日本フットケア・足病医学会 第2回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原祐子、平尾由美子
2. 発表標題 在宅療養高齢者に対する訪問看護師によるフットケアの現状
3. 学会等名 日本フットケア・足病医学会 第1回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平尾由美子、鈴木博美、岡田康平、小笠原祐子
2. 発表標題 看護学生のテキストにおける「高齢者のフットケア」に関する記載内容の傾向
3. 学会等名 日本フットケア・足病医学会 第1回学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小笠原 祐子 (Ogasawara Yuko) (80404929)	和洋女子大学・看護学部・准教授 (32507)	
研究分担者	東本 恭幸 (Higashimoto Yasuyuki) (10782451)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授 (22501)	
研究分担者	立石 和子 (Tateishi Kazuko) (80325472)	仙台赤門短期大学・看護学科・教授 (41310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------